

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	運動療育型児童デイ ぼぶらの樹 遠里小野		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 22日		令和8年 2月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27名	(回答者数) 21名
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 22日		令和8年 2月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人ひとりに合わせた個別支援	発達段階や特性に応じた個別支援計画を作成し、定期的な評価と見直しを行いながら、将来の自立や進路を見据えた支援を実施する。	発達評価や職員研修の頻度を増やし、専門性と個別支援の精度を一層高める。
2	生活に直結した実践的な支援	日常生活動作や集団活動を通して社会性や生活力を育て、学齢期から段階的に社会で生きる力の定着を図る。	生活スキルの体系化プログラムを導入し、社会で生きる力を計画的に育成する。
3	保護者との連携・丁寧なサポート	定期的な面談や情報共有を継続し、家庭と連携しながら成長課題や進路を共に考える支援体制を整える。	面談や保護者学習会を定期化し、家庭との連携強化と相談しやすい環境づくりを進める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	安全管理体制の再構築と危機意識の向上	大きな事故は発生していないものの、利用者の成長に伴う行動変化や突発的な災害を踏まえ、環境面の安全基準や点検体制の見直しが求められます。職員全員が日常的に危険予測や気づきを共有できる仕組みを構築し、ヒヤリハット事例の共有や定期的な研修を通して危機意識を高めることが課題です。	ヒヤリハット事例の定期共有や職員研修を通じて危険予測力を高め、点検基準の明確化に努めていきます。
2	書類業務の効率化による支援時間の確保	記録や書類作成に多くの時間を要しているため、ICTの活用や書式の簡素化を推進し、業務負担を軽減する必要があります。支援の質を落とさずに記録時間を短縮し、子どもと向き合う支援時間を確保する体制づくりが重要な課題となっています。	ICTツールの導入や書式の簡素化を推進し、書類業務の効率化を図り、支援に充てる時間の確保に取り組んでまいります。
3	家庭状況に応じた家族支援体制の強化	従来の懇談や送迎時の情報共有だけでなく、家庭環境やライフステージの変化に応じて計画的かつ積極的に保護者へアプローチを行うことが求められます。相談しやすい環境を整え、多様な相談方法を用意しながら、支援の一貫性を高めることが課題です。	面談や多様な相談方法を計画的に整備し、相談しやすい環境づくりと情報共有の強化に努め、継続的で一貫した家庭支援体制の充実を目指します。